

10/25 楽しく学ぶクラシック音楽講座講義レポート

2回目は、曲を聴いているだけではなく、知る事により楽しくなる雑学のお話でした。音楽の暗号と思われそうな音名象徴と言うものがあるそうなのです。

音を文字に変換するなんて驚きです。楽譜に書かれた音の名前がそのまま文字に変換されるわけです。また、その音名象徴をシューマンやショスタコーヴィッチがよく好んで音楽作品を作ったと言われていました。

『あなたの名前が音符になります』と言うのはとても面白いです。とはいえドイツ音名を知る事が必要なので、なかなか難しい内容でした。でもいろいろ音楽の知識が豊富になれば、人にも伝えられる事が増えますし、教えられた方々も影響をうけて、音楽について調べるようになり、作曲家の意図する演奏をより楽しめるのではないかと思います。

ラ・カンパネラは大変親しみのある曲ですが、ヴァイオリンが原作でピアノが後で弾かれるようになったと言う事でした。どちらも演奏するには卓越した技法と能力が必要と説明を受けました。

ニコロ・パガニーニはヴァイオリンでフランツ・リストはピアノでそれぞれ魔術師のようだと評されたそうです。

講義の途中で実際の曲を聴くのですが、その旋律の美しさと弾き手の素晴らしさに感動しました。

ラ・カンパネラをピアノで弾きたくて、高齢になっても弾けるようになった人がいると言うお話を伺って、素晴らしいという言葉しかありませんでした。

帰り道ではヴァイオリンとピアノのラ・カンパネラが頭の中で鳴り響いていました。先人達も同じ様に感動したのだと強く感じました。